

令和4年度 第4回気高地域振興会議兼視察研修報告

日 時 令和4年10月14日（金）8：30～17：40

視察先：島根県雲南市 雲南市波多交流センター

目 的：平成の市町村合併後、学校統合により廃校となった校舎の利活用をはじめ、温泉施設、共助交通、買い物支援、小さな拠点整備などに取り組んでいる島根県雲南市波多地区を訪問し、気高地域の今後のまちづくりについて理解を深める。

参加者：河根裕二会長、久野壯副会長、近藤可奈委員、田中敦志委員、地原伸委員、松井千晶委員（敬称略）

随 行：中原登支所長、久野明男 副支所長兼地域振興課長、武田美由紀地域振興課長補佐
山本正信事務員、中島基晴主事（市民生活部地域振興課）

《視察概要》

現在、気高地域では、地域交通への新たな実証実験の取り組み、浜村地区、逢坂地区で取り組んでいる小さな拠点整備に取り組みを開始し、また気高地域の小学校統合に向けて協議を進めているが、先進的にこれらの事業に取り組んでいる波多センターを訪問しました。

当日は、波多コミュニティ協議会の木村会長をはじめ田原事務局長より、地域内交通「たすけ愛号」、波多温泉「満壽の湯」の指定管理事業の導入、はたマーケットの開設、運営管理などについて説明していただきました。

最初に、木村守登会長より、波多コミュニティ協議会の取組み経過について説明があり、小学校が廃校になったことをきっかけに、廃校を「波多交流センター」を拠点に活動を開始し、市役所だけに頼るのではなく、自分たちが自ら主体性をもって課題解決に向けて、各種事業に取り組んでいることが説明されました。

田原事務局長からは、資料に基づき、波多地区の現状、交流センターの整備に至った経過、コミュニティ協議会の概要説明、防災、はたマーケットの開設経過、地域内交通「たすけ愛号」の運行開始などについて丁寧な説明がありました。その後、気高地域の課題を踏まえて意見交換がありました。

《主な質疑応答》

【委員】各地区公民館の体制をどのように開拓し現在の事業に繋げたのか。

【協議会】「公民館を無くすわけではなく、公民館の仕事も一緒にやりましょう」と公民館職員を個人的に説得した。組織が雇用し、稼ぐ、収入を得る、そういったことも併せて仕事することで、事業展開ができ大きく幅を広げることができた。

【委員】「はたマーケット」に対する支援金はどのように設定したのか。

【協議会】この地域出身者50名に毎年「ふるさと通信」を送っており情報発信をしている。その中に振込用紙を入れて寄付をお願いしたり、波多地区内の住民に声掛けをし、いただける範囲でお願いした。

【委員】人口減少に対して、移住、定住に関して何か施策をされているのか。

【協議会】空き家はたくさんあり、Iターンはあるが、なかなか子どもを持つような若い層の定住に結びつかないため、家賃を減額たりして工夫している。今後も空き家を使用してい

ただくよう、引き続きIターン、Uターンを推進していくしかないと思う。

【委員】たすけ愛号について、受付はすべて事務局で行っているのか。

【協議会】予約をしていただき、すぐに対応できるよう職員が動いている。

【委員】無料でよくやっておられると思う。運転するのに資格などはあるのか。

【協議会】講習が自動車学校である。運転するだけではなく、利用は高齢者が多いので福祉の観点から自宅玄関を入るまで見届けることを実践している。賃金の面では、福祉関係の予算を充てたり、ふるさと基金等でまかなっている。



参加した委員からは、「気高町も人口減少や、高齢化、空き家の問題、小学校の統合による廃校の活用など、数年後には波多地区のような状況になると予想した場合、様々な課題がでてくると思われる。」「地域住民も現状を知り将来意識を強く持ち、行政等も身近でかかわりながら、一丸となって現状を維持していかなければならない」と感じたなど感想をいただき視察研修を終了しました。

以上